平等寺だより

二重の塔再建はじまる

二〇〇四年は、慶円上人（三輪上人）が平等寺を中興されて八〇〇年の記念すべき年になります。報恩事業として二重の塔の再建を発願いたしました。壇信徒皆さまのご協力のもと、二〇〇三年の秋の完成に向ってようやく着手することになりました。四月十三日に仏足石堂を解体し、そして四月十七日に波切不動堂解体、五月七日には波切不動堂の建設が始まり六月二十二日屋根葺き工事が完了致しました。二重の塔の用材はカナダ桧ですが樹齢が八百年から千五百年という驚くべきものです。これらの用材が、開山聖徳太子や慶円上人の時代から自然の厳しさに耐えて生き続けてきたことを思う時、身の引き締まるものがあります。塔は本来、お釈迦様のお姿であり、仏教徒の礼拝の対象でありました。

八百年ぶりに平等寺の二重の塔が再建され、仏法が興隆して、私共の信仰の心の礎となることを切に願うものであります。

住職　丸子孝法

編集発行
〒633-0001
桜井市三輪 38
三輪山平等寺
TEL/FAX
0744-42-6033

行事予定

一、第三十三回壇信徒本山研修会参加者（七月三、四日　大本山永平寺）

副住職　丸子孝仁
吉備　日浦愛　（六回目）
栗殿　後岡逸子（四回目）
三輪　岡本澄子（初　回）
三輪　辻本年夫（初　回）
三輪　辻本英子（初　回）

※毎年七月上旬に行われています。一泊研修でとてもいい内容です。次回からの希望者は来年6月上旬までにお寺に申し込んで下さい。

一、高祖道元禅師七五〇回大遠忌近畿管区予修法要（十月十一日　和歌山県民文化会館）

平等寺住職他、総代三名参加予定。

一、中国天童寺参拝の旅（十一月十二日～十六日　曹洞宗奈良県宗務所主催）

旅行代金　十三万八千円
募集締切日　八月三十一日

一、第二十四回子供緑蔭禅の集い参加者募集（七月二十八日～二十九日　大本山永平寺）

参加費　八千円
募集締切日　七月六日

※今年で二十四回目になります奈良県の緑蔭禅の集いですが、なんと第一回は平等寺で行われたのでした。今回はそば作りや紙すきもあって盛りだくさんです。小学4年生以上で参加希望の方はお寺に申し込んで下さい。

法話

「自分が自分を自分する」

みなさまは、家庭農園というものの経験がありますか。鉢植えのトマトやナスビでもいいでしょう。小学校の花壇でヒマワリを育てた経験があるかもしれません。自給自足という程でもなく、営利目的でもない、ただ食卓に一品二品をそえるための小さな農園。土をおこし、種を植え、水をやり、野菜たちに語りかけながら育てるのが家庭農園であります。

私は数年前から小さな小さなミニ畑で、野菜を作り始めました。キュウリやトマト、ナスビ、ピーマン、オクラ、ナンキンと、ところせましとうえてみました。さらに、まったくの無農薬で育てようと欲ばったものですから、これは世話が大変でした。朝のお勤めの後は、毎日、虫との格闘であります。

やっとの思いで、六、七本植えたキュウリの苗に、八十本もの収穫が恵まれました。しかし、その多くは曲がりくねったものばかり。への字はまだ良いほうで、つの字やめの字のものもあります。〝個性的〟というか何ともほほえましい限りです。近頃のスーパーなどに並ぶ厚化粧のワックス野菜や、化学肥料ばかり詰め込まれた野菜と比べ、なんとおおらかでいきいきとしていることでしょうか。

人の生き方でも、見てくれで生きる生き方と、本音本領で生きる生き方があります。見てくれの良いものを求めている間は結局、自分自身の見てくれに捕らわれているのではないでしょうか。曲がっていても、虫食いでも、それが本物の姿なのだと気がつくことが、その人の生き方の転機となります。

禅の修行を自受用三昧（じじゅようざんまい）と申します。これは、自分が自分を自分すること、つまり本物の人生を歩もうと努力することです。

（孝法）

まるが行く　その①

マルは、この春に友達のチャコが亡くなって寂しそうにしていたが、また最近、元気に走りまわっている。赤門東側のつつじの中にチャコの墓がある。みんなでおまいりをした。この間、よっちゃんが花を買ってきてお供えしてたっけ。マルはいつものとおりだれかれかまわずとびかかって行く。ナユはこわがって逃げるけれども、マルは「わんわん、ありがとわん」と言っている。

三輪山裏

五月二十日に神奈川県の空手の大会に出場し、準優勝したのはいいものの右膝が曲がらなくなってしまった私。曲がらなくなって初めて分かる不自由さ。経験しなければわからない事はたくさんあるが、したくなくても経験せねばならぬときもあるのが人生。「そこで修行しなさい」と笑って諭されました。寛仁は岩手の母の実家で、道仁は神奈川の総持寺で、慶仁は家族と平等寺で皆、修行中であります。

（孝仁）